

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年8月1日発行(毎月一回発行) 第728号

ISSN 0286-7001

# 本の ひろば

8 AUGUST  
2018

## 出会い・人

なぜ本を読むのか? そこに本があるから  
堀江知己

## エッセイ

「井上洋治著作選集」全10巻完結記念  
山根道公/山本芳久

## 本・批評と紹介

荒井 献 著  
キリスト教の再定義のために 細田あや子

八谷俊久 著  
歴史から世界へ 関田寛雄

額重 淑 著  
NTJ 新約聖書注解  
ルカ福音書 1章—9章50節 三ツ本武仁

A.M.ウォルターズ 著/宮崎彌男 訳  
[増補改訂版]キリスト者の世界観  
廣瀬 薫

G.タイセン 著/大貫 隆 訳  
パウロの弁護士 浅野淳博

鶴飼栄子 著/聞き手:梅津順一、梅津裕美  
微笑みをつないで 近藤勝彦

秋葉修孝 著  
たとえ語り尽くせなくても 上・下 工藤信夫

富岡愛美 著  
失望しないで 久保木 聡

地濃誠治 著  
無菌室のボーカル 檀原久由

ジェームズ・バラ 著/飛田妙子 訳  
ジェームズ・バラの若き日の回想  
太田愛人

小見のぞみ 著  
田村直臣のキリスト教教育論 今井誠二

既刊案内  
書店案内



歴史の証言と  
将来への提言



教会の原体験、各地での伝道、実践神学理論の構築、教団紛争、そして説教塾の設立など……。戦中・戦後の教会史を浮き彫りにした貴重な証言集であると同時に、加藤が今なお情熱を抱く日本伝道への提言集。

● 四六判・300頁・本体3,000円

聞き書き **加藤常昭** 説教・伝道・戦後をめぐって

平野克己〔編〕 井ノ川勝・平野克己・朝岡勝・森島豊〔聞き手〕

さらなる読書のために

## キリスト教神学入門

● 本体7,500円

A・E・マクグラス 神代真砂実訳

神学の歴史・方法・内容を冊で網羅。最新の議論にとどまらず、古代から現代の神学まで系統的に学べる。



A・E・マクグラス 本多峰子訳 創世記からヨハネの黙示録まで  
〔中〕内容寛本

全世界で読まれ、絶大な影響を与えた聖書。現代を代表する神学者が、多様な形式が用いられた壮大な書物を概観し、66巻を一挙に解説。年表・地図・図版を豊富に収録。

● A5判・734頁・本体7,200円

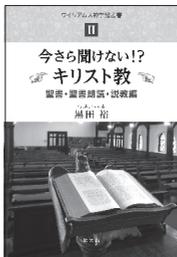
さらなる読書のために

## 聖公会が大切にしてきたもの

● 本体1,200円

西原廉太

成立から現代の教会の姿まで、明快で簡潔なイングリカニズム入門！



今さら聞けない!! キリスト教 説教・聖書朗読・説教編  
黒田裕 ウイリアムス神学館叢書Ⅱ

聖書を書いたのは誰? そもそも説教とは何? 聖公会の(聖餐式における)聖書と説教)について「今さら聞くのは恥ずかしいけど、知りたい」疑問に答える。

● A5判・210頁・本体1,500円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549(出版部)  
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

shop 教文館



## 出合い・本・人

なぜ本を読むのか？ そこに本があるから——堀江知己

キリスト教に導かれたきっかけは多様であり、誰もそれを安易に特定できないだろう。自分を取り巻く環境の全てが各ビースの働きを担い、受洗ないし召命の出来事を完成させる。私にとっても、キリスト教主義幼稚園、教会学校、大学通学路の教会、講義でのキリスト教学習等、様々なきっかけを指摘できる。本もその一つ。私は昔から本の虫である。

小学生の時はDRAGON BALL等の漫画だったが、中学生ではズッコケ三人組シリーズや赤川次郎の推理小説の類、高校生で通称純文学と呼ばれる作品を読み始めた。最初は明治大正の文豪作品、次に外国（特に西欧）文学、哲学書等。

本の虫にとって、「なぜ本を読むのか？」は愚問である。そこに本があるからである。また、キリスト教文学といったジャンルは恣意的範疇である。読者はそう捉えるかもしれないが、著者本人はキリスト教小説を大成しようなどとは夢にも思わなかったはずだ。むしろ彼らの文化にキリスト教が深く根付いていたのである。そもそも「何がキリスト教文学か」も机上の討論である。よって、「本でキリスト教と出会った」もまた暫定的表現であるが、私が初めて本でキリスト教と出会ったのは、ヘッセの『車輪の下』であった。しかしこの作品の文化背景は、海

外と全く無縁であった頃の私にとってまさに異文化そのものであり、登場人物の名が聞きなれぬ外国風カタカナ表記であることと自体、通読意欲を低下させた。だが信仰を持ち、献身し、再びそれを開いた私にとって、それは以前とまるで異なる雰囲気<sup>雰囲気</sup>を匂わせていた。

この小説の主人公は神学生である。作品で言及されるラテン語ヘブライ語の学習方法など、同じ新教の立場も影響し、正教のドストエフスキーや仏蘭西のスタンダールの作品などに比べれば、そこで描かれるキリスト教に関しては、私にとってそれは今なお最高の古典である。実に本が読者に対して占める位置は推移する。本自体は実存ではないが、読者は変<sup>変</sup>わるからである。もちろん、過剰な本読みは懐疑を齎す危険を孕む。しかし『本のひろば』でのお勧めとして、ここでは扱えない一般書でさえ信仰的熟考を提供し得るのだから、ましてやここで掲載されるような神学書ないし信仰の書物は、いかに我々信仰者の魂に潤い<sup>潤い</sup>を届ける美味の果実であることか。だから、そこに本という果実があれば、本の虫に変身しよう！ その実<sup>実</sup>をよく噛<sup>噛</sup>んで、知識を始めとする諸々の栄養を吸収するために！

（ほりえ・ともみ 日本基督教団前橋中部教会牧師）

# 「井上洋治著作選集」全10巻完結記念

二〇一八年四月に完結した「井上洋治著作選集」。井上洋治神父の人  
と思想、その魅力について、著作選集の編者である山根道公氏と、井  
上神父が始めた「風の家」出身の山本芳久氏に語っていただきます。

## いのうえようじ 井上洋治

1927年、神奈川県に生まれる。  
東京大学文学部哲学科を卒業。  
1950年、フランスに渡り、カル  
メル修道会に入会、修道のかたわ  
らリヨン、リールの各大学で学ぶ。  
1957年カルメル会を退会し、帰  
国。1960年、司祭となる。  
1986年より「風の家」を創める。  
2014年3月8日逝去。



## 日本文化の福音化に生涯を捧げた結実

——多くの日本人を福音に導いてきた井上神父の著作

### 山根 道公

やまね みちひろ  
井上洋治著作選集編者  
ノートルダム清心女子大学教授

なかで最も素晴らしいキリスト教思想家」と評価し、次のように語っている。

「なるほど、日本には西欧基督教の考  
えや解釈を語り、紹介する神学者は多い  
だろう。しかしどこかに、それらは日本  
人としての歯でかみくだいていない何か  
があるような気がしてならないのだ。そ  
のためにその内容がいかに高尚でも借り  
ものの感をまぬかれえない。語ることが

井上洋治神父が二〇一四年三月に八六年  
の生涯を終えてから四年をかけて、編集・  
解題に携わった『井上洋治著作選集』全10  
巻が完結した。そこに収録するため、井上

神父をめぐる多くのエッセイを読み返した  
が、井上神父の著作の意義を最も明確に伝  
えてくれるのは、やはり同志の遠藤周作で  
あった。遠藤は井上神父を「戦後の日本の

いかに高踏的でも説得力に欠けているの  
である。／だが井上神父のそれはちが  
う。この本を読めばすぐにお感じになる

織った思索をみせながら話しているので  
ある。だからこの本には嘘がない。耳を  
傾けざるをえないのだ。」

（『人はなぜ生きるか』帯の言葉）

だろうが、彼は自分の言葉で語っている  
のである。日本人に生れながらイエスを  
信じる距離感をどう克服したのか、日本  
人の彼にとってイエスとは何であったか  
を借りものではなくて自分の汗と脂とで

井上洋治は一九二七年に神奈川県で生ま  
れ、十代の後半、生の虚しさや死の不安か  
ら自死の誘惑さえ感じるほどに苦しむ。そ  
の中でリジューのテレーズの自叙伝に示さ  
れた、神は幼子をいつくしむ父親のよう  
な存在で私たちは幼子の心でその愛に信頼  
すればいいというイエスの福音に導かれ、  
東大哲学科一年の時に受洗する。

これ以降、二人は、現代を生きる日本人  
がイエスの福音の喜びを深い実感により受  
けとれるように、福音の原点に立ち帰って  
キリスト教を捉え直すことを試みる。そこ  
で特に力が注がれたのは、日本人が実感で  
きる日本語にかみ砕いて表現することと、  
現代人が納得できる理解を示すことであっ  
た。そうした懸命な思索が結実した井上神  
父の著作は、遠藤の著作と共に戦後の日本  
において多くの人をイエスの福音に導くこ  
とにどれほど大きな貢献をしたであろう。

例えば、日本聖公会の広谷和文牧師は『ア  
ツバのふところ——「牧会・学」覚書』の  
中で、寺の長男であった父が「井上洋治や  
遠藤周作の言っているキリスト教ならよく  
分かるし、日本人としての自分の肌にも合



井上洋治（左）と遠藤周作（右）

親友となる。一九五〇年当時、フランスで  
は現代社会と遊離し硬直化したキリスト教  
を、現代のフランス人に合うように仕立て  
直さなければとの危機感が、後に第二バチ  
カン公会議へとつながる神学者たちの中に  
あった。それを受けて井上神父は、「日本

れた。完結した全10巻を前に、私にはフランススコ教皇の次の言葉が想起される。

「人間は『自分が結びつけられている文化の子であると同時に父です』。ある民族に福音が根を下ろすと、文化を伝達する過程で、信仰もこれまでにない新しいかたちで伝えられるようになります。ですから、福音宣教を文化内開花<sup>インカナルイゼーション</sup>として理解することが重要です」(『福音の喜び』)

井上神父は、日本の文化風土の中で日本

語を母語として生きる限り、自分が日本の伝統的感性を受け継いでいる「日本文化の子」であることを滞仏体験の中で強く意識するようになった。帰国後、『日本とイエスの顔』を皮切りに、それから三十年にわたり、日本文化に福音が根を下ろすための思索を日本語で表し、日本文化の福音化を試みた結果が『井上洋治著作選集』であり、そこには信仰をこれまでにない「新しい私たち」で次の世代に伝えた、キリスト者として自分が結びつけられている「日本文化の父」となった姿があるといえるのである。

## 「窓ガラス」としてのイエス

——井上洋治神学の美しさについて

山本 芳久

やまもと よしひさ  
東京大学大学院准教授

二〇〇六年の四月から二年間、ワシントンDCにあるアメリカ・カトリック大学に

おいて在外研究をしていたさい、フランススコ・ザビエル生誕五百周年を記念す

「窓ガラスは確かに部屋の装飾というか家具というか、部屋の一部ではあるが、他の家具や装飾とは決定的に違う性質を持つている。それは、机にしろ椅子にしろ絵画にしろ、それらは生活に必要な家具ではあっても、決してガラス窓のように窓外の陽の光を部屋のなにもたらしすることはできないのだ。」

師イエスは「人間の一人でありながら、しかしこのガラス窓のように、私たちとは違って、アツバの悲愛のまなざしをこの世界にさしこませてくださる方だったのだ。」

しかし、しかしである。師は確かに生前アツバの光を私たち、生きとし生けるものにもたらしてください。だが、ガラス窓はこわれなければ、外のアツバの風(ブネウマ)は部屋に入りこんで、部屋全体をあたたくく包み込んでくださることはできない。そこに師イエスが、アツバの栄光を、包容を私たち生きとし生けるものにもたらしてくださいるために

う。これなら抵抗感がないから今年のクリスマスに洗礼を受ける」と言って信徒になったことを伝えている。その理由について父がキリスト教に関心を示しながら「やはり日本人にはピンとこないところがある」といつも言うので、信徒になることはあるまいと諦めていたのが、井上神父の『日本とイエスの顔』『私の中のイエス』、遠藤周作の『イエスの生涯』を読んだ結果、受洗し、その後の生涯、教会を支えたと語っている。

これに似た話を、私は三十年近く、井上神父が教会の外で苦しみあえいでいる人たちにイエスの福音の喜びと安らぎを伝えることを目指して創設した「風の家」の活動を手伝いながら、何度も聞いた。中には井上神父の著書に導かれていなかったら、私は今ここに生きていないという人もいた。

井上神父は生涯で二十数冊の著作を著したが、『井上洋治著作選集』には主要な著書がほぼ網羅され、さらに第五巻『遺稿集』と、講義録をまとめた第十巻『日本人のためのキリスト教入門』という新刊が加えら

るシンポジウムが、イエズス会系の大学であるジョージタウン大学で開催された。招待された私は、『The Theory and Practice of Inculturation by Father Inoue Yoji: From Panentheism to Namu Abba』(井上洋治神父による文化内開花の理論と実践——汎在神論から南無アツバへ)という講演を行った(現在は Kevin M. Doak ed., *Xavier's Legacies: Catholicism in Modern Japanese Culture*, UBC Press, 2012に収められている)。

その講演に対する感想として、海外の多くの方が指摘してくれたことには、共通の点があった。それは、井上神父の神学が非常に美しいものであるかという点である。井上神父が述べている見解が「正しい」ものであるか否かという点を問題にするのではなく、「美しい」ものだという指摘が多かったことに、私は強い印象を受けた。とりわけ多くの人が「美しい」ものとして指摘したのは、私が英訳して紹介した井上神父の次の一節である。



旧エリコ・ヘロデの別荘宮殿跡にて

『井上洋治著作選集4  
わが師イエスの生涯』178―179頁

この「窓ガラスの比喩」は、井上神父の他の著作にも登場するものであり、また、私自身、井上神父の口から語られるのを何度か耳にしたこともある。

この一節で語られていることは、あくまでも比喩であり、キリスト教の教義についての論理的な説明ではない。だが、イエスはどのような存在であったのかについて多くの学者によって語られてきた、より体系的で論理的な説明には見出されないような、妙な説得力をこの一節は有している。

部屋の一部でありながらも、他の家具や装飾とは決定的に違う性質を持っている「窓ガラス」。それは、人間社会の一員でありながら、他の人間とは決定的に違う性質を持つている「イエス」の比喩である。この比喩が極めて卓抜なのは、「この世に属しつつも、この世に属する他のものとは決定的に異なっている」というイエスの微妙な在り方を絶妙な仕方ですべて捉えているところにある。この世に属しつつも、この世的なものとは異なる「窓外の陽光の光」――「ア

の悲愛の日向ぼっこ祈り」「湖の宗教」「母なる大自然の中の小さな花」としての自己把握」など、余韻に満ちた魅力的な発想が、選集の中から溢れ出てくる。

これらのキーワードを並べてみてあらためて気付かされるのは、これらのほぼ全てに共通する要素として、「美しさ」というものが含まれているということである。そして、その「美しさ」には、常にどこか「悲しみ」が浸透しているという点も共通している。

「悲しみ」に満ちた「美しさ」を通じての「小さき者」としての自己受容の神学」とでもいうような仕方です井上神父の神学の全体像を捉え直すことができるのではないかと。そして、そうした仕方です井上神父の遺してくれた著作群を多くの読者が捉え直すことが、世界に開かれた仕方です、日本語の神学世界を形作っていくための出発点となるのではないかと。そうした予感に満たされながら、『井上洋治著作選集』の完結を、心から言祝ぎたい。

ツバ（父なる神）の悲愛のまなざし」――をもたらずイエスの両義的な在り方を大変見事に捉え得た比喩と言って間違いない。しかも、実に絶妙なことに、この比喩には更に先の展開がある。ガラス窓がこわれてしまうことは悲しいことだが、そのことによつてこそ入りこんできて、部屋全体をあたたく包み込んでくれる風というものがある。同様に、イエスが「自らをあの手字架の上でおこわしになる」という出来事は、とても悲しいことだが、そのことによつてこそイエスは、「アツバの栄光を、包容を私たち生きとし生けるものにもたらしてくださる」ことができたのである。

付されている同選集の宣伝文には、「日本人の心の琴線に触れるようイエスの教えを伝えるため、多くの著作を残した、カトリック司祭井上洋治」という文言がある。この文言は、井上神父の活動と著作の在り方を極めて凝縮した仕方です的確に表現したものと見えよう。だが、もしも、「日本人の心の琴線に触れる」という部分を、「西洋人には分らない」というような仕方です狭く理解してしまふならば、それは、井上神父が残した著作群の意義をあまりにも矮小化してしまふことになるのではないだろうか。井上神父の神学の魅力、その美しさは、日本人以外にも通じる。いや、それどころか、私は、欧米の研究者たちのコメントを通じて、井上神父の神学世界がいかに美的な魅力に満ちたものであるかということに気付かされたのである。

『井上洋治著作選集』各巻の巻末などに

著作選集には、実に魅力的な発想の種が充ち満ちている。「余白」「キリストを運んだ男」「南無アツバ」「風のなかの想い」「沈在神論」「イエスのまなざし」「悲愛」「神

遠藤周作と志をともにし、日本人の心に届くイエスの教えを模索した神父の著作選集

# 井上洋治著作選集

全10巻、ついに完結!!

「西欧のキリスト教というだぶだぶで着づらい服を福音の原点に立ち帰って日本人のからだに合わせて仕立て直したい」 井上洋治 (1927-2014年)

各巻 A5判 上製・平均250頁・本体2,500円＋税

第1期 全5巻 山根道公 編・解説

- ① 日本とイエスの顔 山本芳久 解説
- ② 余白の旅 思索のあと 小野寺 功 解説
- ③ キリストを運んだ男 パウロの生涯 若松英輔 解説
- ④ わが師イエスの生涯 広谷和文 解説
- ⑤ 遺稿集「南無アツバ」の祈り 山根道公 解説

第2期 全5巻 山根道公 編・解説 若松英輔 解説

- ⑥ 人はなぜ生きるか イエスのまなざし 日本人とキリスト教 抄
- ⑦ まことの自分を生きる イエスへの旅
- ⑧ 法然 イエスの面影をしるばせる人 風のなかの想い キリスト教の文化内開花の試み 抄
- ⑨ 南無の心に生きる イエスをめぐる女性たち 抄
- ⑩ 日本人のためのキリスト教入門 井上洋治著作一覽

特製CD付き第1期/第2期 各全5巻セットを販売中! 詳しくはホームページをご覧ください▶

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL 03-3204-0422 FAX 03-3204-0457  
■ホームページ <http://bp-uccj.jp> ■Eメール [eigy@bp.uccj.or.jp](mailto:eigy@bp.uccj.or.jp) (表示価格は税別)

学問・教育・伝道にかける著者の思い  
荒井 献著

## キリスト教の再定義のために

本書は、新約聖書学研究を牽引されてきた荒井献先生の、これまで未公開だった論文、講演、説教、エッセイ、スピーチなどからなる。著作集をはじめ、注解書、研究書など緻密でハードなものとは、ちょっと異なる五五もの文章が集められている。最初に書かれた文章は一九五八年。今年でちょうど六〇年がたつ。講演や礼拝メッセージの語り口からは、研究と教育に従事されてきた先生のさらに別の一面が垣間見える。だが、つねに物事に対して厳しくかつ愛情をもって、「キリスト教の再定義のために」思索し行動されてきた先生の姿勢は一貫している。キリスト教会の従来定義では、「イエスははじめから神の子キリストである」と信仰されている。これに対し荒井先生は、「社会的弱者の一人になり切ってその生涯を貫徹した人間イエスは神の子キリストである」と信じる宗教へとキリスト教を「再定義」しなければならない、と言われる(五三三頁)。

長い伝統のある宗教について定義を試みることはとても難しい。いろいろな側面があり、多様性こそがキリスト教の特徴でもある。しかし、荒井先生には長年培われた信仰があるからこ



## 細田あや子

そ、このような主張ができるのだろうか。先生の愛読聖句、フィリピの信徒への手紙三章一二節も考えあわせると、この再定義の試みは、多くの信仰者や信仰を持たない人とも連帯してきた日常の経験にもとづく先生の信仰告白だと思われる。「キリスト・イエスによって捉えられ」、「救いにとって不可欠な賜物」を追求してきた荒井先生の折々の言葉が、本書にちりばめられている。

このような主張をされる先生を支えていらしたのが、二人の伴侶の方々である。牧師でありハンセン病と救済について調査実践されてきた荒井英子先生の文章は、本書後半に引用されている。

第35編には、人々を「救済の客体」ではなく「解放の主体」へと促すことが伝道である、という英子先生の鋭い指摘がある。これに荒井先生の言葉が続く。学生がその内なる「生きる力」を自ら主体的に引き出す媒体となることが、大学の第一の社会的責任である、と(三三三頁)。

伝道者と教育者という立場からのこれら二つの主張は、まさ

に重なり合う。荒井先生の長年の考察は、英子先生との対話を通して生み出されてきたことがうかがわれる。そして、このように荒井先生の文章によって、英子先生の牧師としての働きとそれに裏打ちされたメッセージがさらにわたしたち読者に広まってゆく。

本書を読み進めてゆくと、二〇一〇年一月、英子先生がお亡くなりになったこと、そしてその直後東日本大震災が起こったことが、先生にとってつらい出来事であったことが深く察せられる。

第34編「弱さを絆に」というタイトルは、「元来「べてるの家」のモットーの一つであり、英子先生の遺稿集のタイトルともなった。ここでは、被災者に対するボランティアの関わりについて、また大震災後、生かされているわたしたち人間の「存在価値」について、さらにどのように死や死者に向き合ってゆくのかについて述べられている。一緒に英子先生の声も聞こえてくるようだ。一人では弱くとも、互いに連帯すれば、何もかも破

壊され失われたところにも希望の光が宿る。「震災の闇路から紡ぎ出す光」という表現も美しい。「弱さを絆に」というメッセージは、大震災後さらに力強くわたしたちに響いてくる。

ここ数年、亡くなった人たちを忘れずにいること、いつも思い出すことが大切だと気づかされている。思い出を語り合うことによつて、いなくなった人はこの世で生き続けると思う。

本書冒頭に、今の季節なら若苗の緑まぶしい田んぼの広がる秋田、神代・柏林の地の信仰の導き手となった安藤仁一郎氏のこと、が掲げられている。これも、亡くなった人——自分の生まれ故郷や原点に関係する人——を忘れず、思い出を家族や知人、そしてここでは読者とも共有することの重要性を示している。

原始キリスト教やグノーシスなどの歴史研究を踏まえ、つねに同時代かつ将来を見据える荒井先生——米寿を迎えられた——の立場がうかがえるお薦めの一冊である。

(ほそだ・あやこ)新潟大学教授  
(四六判・五二八頁・本体四五〇〇円＋税・新教出版社)



## 絵画と御言葉

美術作品に表されたキリスト教信仰

吉田実

Minoru Yoshida



「ミケランジェロ、レンブラント、ゴッホ、ルオー、たくさん著名な画家が聖書のワンシーンを描いています。さて彼らの人生や信仰は……興味深いエピソードがいっぱいの一冊です！」

教会音楽家 久米小百合さん推薦

A5判・上製  
定価 [本体 3,200 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-111-3



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

新たな倫理の構想を示す力作  
八谷俊久著

## 歴史から世界へ 20世紀プロテスタント神学における キリスト論の諸問題



関田寛雄

著者は永年のキエルケゴール研究により、ドイツ・フランクフルト大学において神学博士を取得した後、米国のセントオラフ大学客員研究員を経て帰国し、現在は岡山において牧会を続けている方である。

本書は三部に分かれており、第一部は「逆説から歴史へ」であり、キエルケゴールの影響の下に「弁証法神学」をバルトが打ち出した経過を丹念に辿っている。「瞬間」と「逆説」というキエルケゴールの方法により19世紀の連続と直接性の神学に訣別を告げたバルトとキエルケゴールの関係が綿密に描かれている。特に「逆説のキリスト論」から「イエス・キリストの歴史を物語ること」への移行において両者の共通の視点と共に微妙な差異が詳説されている。

第二部には「もう一つの『逆説から歴史へ』」ということでブルトマンとブルトマン学派における史的イエスの問題が論じられている。周知のように「肉によってキリストを知ろうとはしない」(IIコリント5・16)によって直接性の聖書学と訣別したブルトマンは「ケリグマ」との出会いを神学の出発点と考

えた。啓示と歴史の「逆説」に立つケリグマ神学はその「宣教的神学」によって神学界に大きな問題提起となった。しかしその「逆説のキリスト論」の限界が弟子たちによって指摘され、改めて「史的イエス」への要請と関心が喚起され、啓示の歴史性がキリスト論の課題となったのである。

第三部は「歴史から世界へ」と題して「20世紀プロテスタント神学におけるキリスト論の諸問題」が論述される。

その第一はテイリツヒの「新しい存在の開示としてのキリスト像」である。テイリツヒは「問い」と「答え」の相関関係の方法により、歴史よりもむしろ「新しい存在」としてキリストの啓示の存在論的意味を探索する。それは史的イエスの探求の道ではなく、キリスト・イエスの人格と「形像」の提示を課題として提唱する。そこには存在論的な救済の広さと深さが示される。

その第二は著者の最も力をこめて語るボンヘッファー論である(三つの章に渡る)。まずは「他者のためのキリスト」論である。ボンヘッファーのキリストは神の現実と世の現実の中間

に「仲保者」として立つ方であり、かつ「苦難の代理者」として「他者のためのキリスト」である。そこから必然的に導き出されるのは「他者のためのキリスト者」であり、それは更にキリストへの「まねびの神学」へと展開する。この「模範としての苦難のキリスト像」は、本書における著者の最も強く関心を持つ主題であり、これに基づいて著者は「キリスト教(社会)倫理学」の可能性をも構想している(二四二頁)。この「まねび(服従)の神学」は後期バルトにも影響を与え、彼の『教会教義学』第四巻「和解論」に展開される「世のためのキリスト」「世のための教会」の中に見るイエス・キリストの物語は明らかに彼がボンヘッファーから学んだ事であると述べている。最後はモルトマンの「十字架に付けられたキリスト」を中心に三位一体論の新しい展開が紹介され、ここでも殉教に関連して「まねびの神学」が言及される。

濃密な議論から実に多くを学んだが、二つだけのコメントを

残したい。その一つは従来「バルトーボンヘッファー路線」と言われて来たが著者はあえて「ボンヘッファーーバルト路線」と言い切っていることに注目したい。今一つは「まねびの神学」の強調である。「キリストの模倣」が今日の教会において「信仰義認」と共に強調されるべきではなからうか。本書を読了して響いてきたのは、ボンヘッファーの獄中書簡の中の、「教会の言葉は説明ではなく模範によって強められる」との言葉であった。神の言葉は模倣体としての私たちの肉体を求めているのではなからうか。

(せきた・ひろお)日本基督教団神奈川教区巡回教師  
(A5判・三三三頁・三四〇〇円+税・新教出版社)

## 風

日本人の心に  
イエスの福音を  
届けることを求めて  
井上洋治神父創設  
『風の家』の機関誌

第104号(2018年春・夏)

〈特集〉宗教と文学  
日本人の魂を揺さぶる作家たち

井上神父の遺言 東方キリスト教に学んでほしい 山根道公  
講演 ドストエフスキーのキリスト教と井上神父 安岡治子  
シンポジウム 伊藤幸史 安岡治子 山根道公 山根息吹 山本芳久  
対談 遠藤周作『深い河』から 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』へ 若松英輔 山根道公  
自然とともに祈る井上神父の霊性—賢治とテレーズをめぐる— 山根知子  
遠藤文学 日本人の無意識に届くキリスト教 山根息吹  
C.S. ルイスと自然 高田ひかり  
八木重吉の罪意識—東方キリスト教の汎在神論に触れて— 山根道公  
三つの感謝 シスター渡辺和子様 竹原陽子

### お知らせ

日本人の心をとらえるドストエフスキー作品の東方キリスト教的信仰—芥川龍之介と遠藤周作をめぐる— 講師：山根道公  
①10月14日(日) ②11月11日(日)  
15:30~17:00 会場・幼きイエス会  
参加費 千円(学生半額)事前申込み不要

伊藤幸史 × 山根道公対談  
自然から学ぶ宗教性  
11月10日(土) 会場・幼きイエス会  
14:00~風の家のみさ 14:50~対談  
参加費無料 事前申込み不要  
(対談からのご参加も歓迎いたします)

◆年間購読料 2,000円(年2回 送料込)  
◆定価 1,000円(送料別)

### 風 編集室

〒700-0808 岡山市北区大和町1-13-1  
Tel.&Fax 086-227-5665  
https://www.kazehensyuusitu.jp/  
E-mail kazehensyuusitu@gmail.com

日本語で書かれた、最初の本格的ルカ注解  
 嶺重 淑著

NTJ 新約聖書注解  
 ルカ福音書 1章—9章50節



三ツ本武仁

このたび待望の嶺重淑氏（関西学院大学人間福祉学部教授、大  
 学宗教主事）によるルカ福音書注解が刊行された。私は神学生  
 時代、嶺重先生よりギリシア語の手ほどきを受けた者であるが、  
 熱心にご指導を下されたことを今でも時々思い起こす。三  
 年ほど前、ご自身のライフワークとしてルカ福音書注解の執筆  
 を志しておられることはお聞きしていたが、遂にそれが実現し  
 た。偶然にも私は今教会でルカ福音書の講解説教をしている。  
 その意味でも本書の刊行は大変嬉しい。

本書はNTJ新約聖書注解シリーズの第二弾であり、三巻か  
 らなるルカ福音書注解の第一分冊として、序文に始まり、イエ  
 スの誕生からガリラヤでの宣教までを語る1章から9章50節  
 までを扱っている。内容は本シリーズの「共通フォーマット」  
 に則り、緒論、各単元の【翻訳】、【形態／構造／背景】の詳  
 述、各節ごとの【注解】、そして【解説／考察】がなされてい  
 く。ただしその際は「日本語で記された学術的なルカ注解が皆  
 無に等しいという現状」を踏まえ、「目新しい学説を提示する」  
 のではなく、あくまでも「伝統的で中立的な立場から各テクニ

クの穏当な理解を提示する」という著書の信念が貫かれている。  
 具体的には、編集史的研究を基礎に据え、先行研究と対話し  
 つつ、その上で各テクニストが現代を生きる私たちに何を語って  
 いるかの考察が事例を挙げながらわかりやすく語られていく。  
 また幾つかの興味深いテーマ（たとえば「ルカにおける祈り」、「重  
 い皮膚病」など）については「トピック」として別項を設けて  
 詳述されている。ギリシア語原文も必要に応じて掲載され、原  
 語の理解も深められる。

本注解を読み進める中で、浅学の私が改めて学ばせていた  
 いたことを正直に書きたい。まずルカ福音書1章5節から2章  
 全体を占める「イエスの誕生・幼少期物語」において、洗礼者  
 ヨハネとイエスの誕生が並行して語られている意味。これはそ  
 のことを通してヨハネ（預言者）に対するイエスの優位性（神性）  
 が示されているのであり、「この物語はルカ福音書の他の部分  
 を前提としており、この物語において証言された神の子として  
 のイエスの本質は3章以降の箇所でも明らかにされていく。」  
 次にイエスの宣教活動の開始となる「ナザレ説教」（4章16

—30節）の意味。イエスは会堂で「預言者イザヤの書」を朗読  
 する。これは「ルカ福音書におけるイエスの宣教活動の中心内  
 容を綱領的に示すと共にルカのイエス像の特質を示している。  
 すなわちイエスは、神の霊を受け、神から遣わされた救いの  
 使者であり、（中略）旧約預言者の伝統を受け継ぐ存在である。  
 また、マルコやマタイと異なり、ルカのイエスは神の国の間近  
 の到来よりも神の現在の救いを宣べ伝えており、彼の宣教は旧  
 約預言の成就を意味している。そして、イエスの救いの告知は  
 まず貧しい人々に代表されるこの世の社会的弱者に向けられる  
 が、その意味でも、彼の宣教は異邦人を含めた普遍的な救いを  
 目指している」のである。

続く注解の中で、この「ルカのイエス」が実証されていく。  
 たとえば「幸いと禍いの言葉」（6章20—26節）では、貧者につ  
 いてマタイがそれを倫理的な意味で解釈するのに対し、ルカは  
 文字通りの無一文の極貧者として捉えているが、この極貧者は、  
 あらゆる社会的弱者を代表している。その彼らがイエスに「幸

いだ」と宣言されていることに大きな意義がある。彼らは、そ  
 の状況ゆえに無条件で慰められ、支えられるべき存在なのであ  
 る。また「罪深い女性の赦し」（7章36—50節）では、「主体的  
 な愛の実践」こそは赦されていることの証であり、信仰の証で  
 あることが示されている。それと共に、そこには排他的な信仰  
 に留まっている者への警告が込められている。  
 日本社会では依然としてマイノリティーの教会だが、それな  
 のに、いや、それだからなのか、やはりそこにも構造的な強弱  
 やこの世的な差別が入り込んでいる。私たちがそのような自ら  
 の歪んだ現実を克服し、かつ様々な格差の広がる現代社会にあ  
 って弱者へのまなざしを保ち、地の塩、世の光として立ち続け  
 るために、本書をぜひ手に取り、じっくりと読み込んで「ルカ  
 のイエス」に出会っていただきたい。

（みつもと・たけひと＝日本基督教団香里教会牧師）  
 （A5判上製・四九〇頁・本体五二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局・  
 二〇一八年九月末までの特別価格、本体四四〇〇円＋税）



Rock'n 牧師の丸い世界 一周

関野和寛  
 牧師BOOのベース&ポーカー  
 日本福音ルーテル東京教会牧師

国境、宗教、言葉、自分の壁—そんな壁をぶつ壊すのはイエス。  
 キリストだ！月刊新聞『こころの友』2015〜2016年  
 度連載に、書き下ろしと旅の写真を加えて単行本化。牧師で  
 ありロックカーの著者が、各国を訪れ多くの人と出会い、互  
 の壁を壊してきた経験を語る。

四六判・88頁・1080円

説教黙想 アレテア  
**ローマの信徒への手紙**  
 季刊誌『説教黙想 アレテア』第87〜91号に連載され、パウロの神学を根幹とし、聖書の言葉を導き出す。  
 B5判・392頁・4,860円

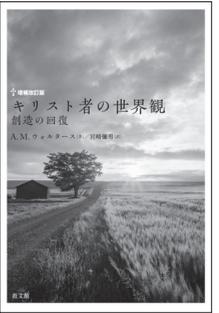
日本キリスト教団出版局  
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
 E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
 http://bp-uccj.jp

信仰を持つだけでなく生きるために

A・M・ウォルターズ著

宮崎彌男訳

「増補改訂版」キリスト者の世界観  
創造の回復



廣瀬 薫

昔から何度も読み返してきた本である。以前の版（一九八九年）以来長く絶版になっていたが、この度「増補改訂版」として、出版社を代えて出された。本文はマイナーチェンジだが、長い「あとがき」が加わり、頁数で三千数頁増えている。本書が手に入るようになったのは、大いに喜ばしいことだ。

日本のキリスト教会の一つの印象は、「どうしたら救われるか」を非常に良く教えてくれるのだが、「救われた後をどう生きるか」をあまり教えてくれないことだと思っている。すると、日曜日の礼拝の価値観と週日の生活の価値観が分離して、「聖俗二元論」に立った生き方になりがちだ。日曜日は「神の民」だが、週日は「この世の民」と変わらぬ生き方に流されてしまふ。つまり「信仰を持つ」だけで停滞し、「信仰を生きる」所に進まないのである。価値観が分離した生き方を長く持続することは、もちろん難しい。その結果、日本の教会は、大量の信徒の「教会離れ」を招いてきた。「クリスチャンの平均寿命」の短さが自嘲的に揶揄され、「卒業信者」などという本来意味不明の言葉が流布してきたのだ。

鍵は、救われた後、信仰を持つだけでなく生きるための土台となる、キリスト教世界観を持つことだ。本書はそれを教えてくれる非常に大切な内容を持っている。これで牧師も信徒も、聖書が教える世界観の枠組みを持って、日曜日にも週日にも、教会でも社会でも、神の国の民としての一元論に立つて生きる事ができる。人生や世界のあらゆる問題について、「答え」ではなく、「聖書的な問いの立て方」を教えてくれる。これが大切なのだ。

私が仕えている東京基督教大学（TCU）の特徴は、「聖書のキリスト教世界観」に立つて実践的に生きるための教育である。大学のアピールのために、教会や集会や講演会で、「聖書のキリスト教世界観」についてパワーポイントを用いて説明することが多い。その際によく受ける質問は、「良い参考書は何か」というものだ。今まで少々返答に迷ってきた。本書は間違いなくその必要に応えるものだ。必読書の一つである。その上で、ご参考になればと思い、四つほどコメントを加えたい。

①本書は、聖書に立つて生きようと願う者が誰でも受け止め

られる、普遍的な内容であると思う。著者の背景が改革派であるために、改革派神学の解説であるかのように感じる人があるかも知れないが、そう受け取る必要はない。言及されてはいないのだが、本書には例えば、福音主義の「ローザヌス誓約」や、カトリックの第二バチカン公会議の姿勢に通じる内容が多くあるのだ。読者は、自分の教派的伝統や興味に引き寄せて、視野を広く持つて読むと良いと思う。

②日本における宣教に用いたい。私は未信者に伝道する時にも、聖書のキリスト教世界観を織り込んでいく。救いの喜びを説明すると共に、救われた後の生き甲斐に満ちたクリスチャン生活の喜びを説明して、信仰を生きる人生の展望を初めから分かち合うのが良いと思っっているからだ。

③本書は聖書の世界観の背骨となるものを提示し、同時にその適用として多くのテーマに触れている。コンサイスにまとまっているから便利であるが、そのため非常に濃縮されている。

内容をよく咀嚼して、自分がこの世で取り組むべき次のテーマに学びを進める入口として活用するのが有意義である。

④本書はキリスト者の世界観の枠組みを、「創造―墮落―あがない」という枠組みで説明し、それに立つて課題に取り組むために「構造的と方向性」という考え方を提示している。同じことなのだが、私は「創造―墮落―回復―完成」という四つのポイントの枠組みで提示するようにしている。「創造」から「完成」に至るのが「方向性」の意義であることを明示すると、希望に満ちた信仰生活になると思う。ご参考になれば幸いである。

（ひろせ・かおる 東京キリスト教学園理事長）  
（四六判・二二八頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）

自叙伝

マリア・ヴァルトルタ

殿村直子訳

「苦しみは耐えるだけではない、愛する力となる…」

●著者の生涯記録写真16頁 四六判上製 592頁 定価(本体5000円＋税)  
母親の育児放棄・虐待に耐え、なおも母への孝愛を示す感動の記録。母の死後、闘病生活のなかで見たリアルなキリストの公生活三年の記録『私に啓示された福音』の序章をなす、歴史的にも貴重な奇蹟的証言。



春秋社

東京都千代田区外神田2-18-6  
03-3255-9611 FAX 03-3253-1384  
http://www.shunjusha.co.jp/



福音に支えられた人生を振り返る

梅津順一／梅津裕美聞き手  
鵜飼栄子著

### 微笑みをつないで

教会と共に90年



近藤勝彦

新年を迎える度に子供たちを目の前に座らせて、男の子は牧師に、女の子は牧師夫人になるようにと言いつけた牧師がいた。この話は誰からともなく多くの人が耳に届いた。私もそれをどこからか聞いたひとりである。その牧師が日本組合教会の岩村清四郎牧師であり、その娘のひとりが本書の著者鵜飼栄子さんである。著者はその父の勧めを家訓として受け止め、自らの意志によって引き受け、日本メソヂスト教会鵜飼猛牧師の末子勇牧師の夫人になった。この人の歩んだ九〇年の人生には、日本のキリスト教会にとって価値ある報告が実に多く含まれている。今回、梅津順一、裕美夫妻が聞き手になってまとめられた本書の内容は、まさしく期待通りのものになっている。多くの人がお読みになるように、是非、お勧めしたい。

本書は一読して、二つの面を持っていることが分かる。一つは、著者自身は意識していないと思われるが、日本キリスト教史の体的実録として、将来への資料をなしている。そしてもう一つは牧師夫人として夫を支え、何よりも教会を大切に生きて来た一人の信仰者の証しの人生を記している。

私たちを慰め支える奉仕をして来られた。その報告も貴重である。さらに長く続いた日本基督教団の紛争時代、鵜飼勇牧師は東京教区議長として並々ならない苦勞を負い、その渦中で健康上の試練に逢われた。読者はその最も身近な報告者から聞くことができる。あの紛争を与えた苦勞が、どれほどであったか、少ない言葉の中に具体的に証言されている。一五〇頁の回想録は分量として決して大きくはない。しかし貴重な体験の実録記であって、孫、娘、妻ならばこそその視点から、日本キリスト教史の重大な折々を証言している。

もう一つの面についても記しておこう。本書には一人の信仰者の証しの人生が記されている。これはすでに記述した中にちりばめられているのであるが、私は三つの点を特に挙げたい。一つは、教会を大切にしている信仰者の姿である。自分の信仰をよければよいのでなく、教会を大切に、教会のために考える生き方が証されている。このことはかかならずしも牧師の子、

まず、前者について二、三のことを記しておこう。生い立ち

と生家のことが語られているところで読者は、明治のキリスト教第一世代の代表的人物、小崎弘道とその夫人、つまり著者の母方の祖父父母について孫の目からの報告に触れる。小崎千代、その娘岩村安子、そして著者と、母、子、孫の三代続いた牧師夫人は、日本キリスト教史の一部を内側から支えた系譜として興味深い。著者の父岩村清四郎牧師は、内村鑑三や中田重治と共に再臨運動に一時携わったことのある木村清松牧師の弟であった。どこか氣質が兄と類似した面があったと、娘の目に映った父の姿は語っている。また本書には、戦前・戦中を牧師家族がどんな思いで過ごしたか、文章の分量は多くはないが雄弁に語られている。さらには著者とその同世代の若者たちが戦後解放期にどれほどの学習意欲に満ちて新しい道を求め、またどのような人々が青年たちの先頭に立ったかを興味深く報告している。さらに著者は「全国婦人会連合」の設立に携わり、その代表の責任も負われた。また「牧師夫人の会」の責任を負い、自らの経験を活かし、また謙遜に耳を傾けて、多くの牧師夫人

あるいは牧師夫人だからということではないであろう。信仰者のごく当然な歩みと言つてよいと思う。もう一つは、本書には「牧師の涙」の言及がある。娘として父の、妻として夫の牧師の涙を身近に見て、牧師の本気に触れたと著者は語る。これも牧師の家族に限らず、信仰者の生き方として心すべきことではないかと私は思う。最後に、著者は神からの賜物として天性の明るさと微笑みを与えられて人生を歩んできた。しかし彼女もまた誰かが抱える人生の苦悩に打たれた。本書がそれでも「微笑みをつないで」と人生をくくつたのは、天性の明るさによるだけではない。まさしくイエス・キリストの福音に担われて歩んできたからにはかならない。そこに読者は目を止めなければならぬであろう。

(四六判・一五四頁・本体一五〇〇円＋税・教文館)

### トウルニエとグリーンを讀む！

## 工藤信夫 暴力と人間

ザイイロスト

「力への暴走」が支配する現代を「キリスト者」としてどう生きるか、読み解く！



再び全体主義的様相を呈する現代社会の病理を扱った本「従順」という心の病いに出会い、著者を長年苦しめて来た「宗教者（教職、信徒）の暴力」を解明するが改めて「励まし」になった。著者はこの一冊の本によって、改めてトウルニエを紹介する必然性を確信し書下した。絶賛発売中！ \*四六判・三〇四頁・一、二〇〇〇円

### 菊地 謙 山谷兄弟の家伝道所物語

## 続この器では受け切れなくて

山谷での神との出合いには、特別な意味があることを語ることで、いろいろな疑問に答える義務があると考えた。この本が多分最後になるだろうから、神の涙を示したいと考えた。（著者の言葉）



主な目次 1 私への啓示 / 2 永伊（仮名）さんと共に / 3 お祈り販売 / 4 アウシユビツの普遍性 / 5 創造の神秘 / 6 ボルダリング / 7 存在について / サトルとの対話 / 8 殉す / 9 神へ生きる勇氣 / 白々の黙想 / 10 勇太

株式会社ヨベル YOBEL Inc.  
お問合せは info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1  
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)  
\*自費出版の専門出版社\*資料\*星

日本人の心に届く聖書と宣教  
秋葉修孝著

たとえ語り尽くせなくても 上・下  
知られざるイエスを世間語で学ぶ



工藤信夫

聖書を手にしてもう五〇年を経たが、折々に疑問に思うことが幾つかあった。その一つは「神のことは」と称される聖書の御言葉の訳が果たして本当にこれだよいかという疑問と、伝道にこれだけ多くの労苦が費やされている割には、キリスト教が一向に日本人に浸透しないのみならず、近年の「少子高齢化」のあおりを受けて大半の教会は老人ばかりとなり、無牧の教会が著しく増えているという現実である。

ある引退牧師が私に「みじくも語られたように」「(日本の)教会には、来会した人の数だけ人を去らしめる現実があるのだらう」「(これからのキリスト教)いのちのことは社、九頁)。この二つの問題は、信徒の立場でありながら曲がりなりにも何とか主イエスの真実を伝えたいとする私にとって、長年の大きな課題であったが、最近ようやく一つの方向性を見出した思いがする。それは、まだ聖書が聖書として正しく読まれておらず、また御言葉が乱用される割に、人々に十分納得できる形で伝えられていないのではないかという思いである。それがこの問題の根底に横たわっているように思える。この件に関して、私に強

いインパクトを与えた一冊の本がある。山浦訳の聖書(気仙語訳)である。優れた医師であり言語学者である山浦玄嗣氏が自ら聖書の原典に戻って、日本人、とりわけ「気仙語」という一地方の方言を用いて訳されたものである。

「愛」という概念はなかなか日本人になじまないのではあるまいか、という懸念はこれまでしばしば指摘されてきたことである。山浦氏は、「敵を愛せ」と訳した黄金律が人々を苦しめている現実を知って、「敵をでえじにしる(大切にしない)」という訳を提示した。山浦氏によれば、「神を愛する」「お互いに愛し合う」などという訳は、理念としては尊く素晴らしい励ましであるが、日本人のメンタリテイから言えば、現実はどうもその域に達し得ないという。これは、私が長年キリスト教会に出入りして幾度も直面した現実そのものである。そしてその結果、信徒の対立、牧師の信徒支配、私物化などの現象を招く。

もう一つ、初めにことばがあった。ことばは神であった。という有名なヨハネによる福音書の御言葉を氏は、初めにあ

りしは神の御思い、神の御思いが募ってこの世が出来たと訳された(気仙語訳)。つまり山浦氏の訳に出会って、聖書はようやく私の心に大きく定着したのである。

私の友人に優れたピアニストがいるのだが、彼から面白い話を聞いたことがある。氏はすぐれた読書家であるが、「ある時代から日本人による翻訳は、とても読むに耐えず、途中で投げ出してしまふ。その傾向はキリスト教界にこそ著しい」。かくして感性豊かな彼はほとんど本を読まなくなったというのである。言霊(ことだま)と言われる言葉というものは、それほど微妙なものなのである。

この点著者の秋葉氏は、「ご自身で牧会する教会で山浦氏による世間語訳聖書を使用し、またそのメッセージの要点を北海道地方の方言で「川柳」という形で最後に一言にまとめておられる。秋葉氏もまた、まさしく私が長年腐心してきた「日本人に届く」宣教に心砕いてきた人物にちがいない。

さて本書に収録された礼拝メッセージは、著者の牧会観、すなわち「信仰というものは、内面の事柄だけに限定的なものではなく、人の生きるあらゆる領域に関わる、よりトータルなものとして捉え直すべきもの」という視点で語られている点で注目に値する。このことは宗教改革者ルターが「信仰による義」を大いに強調したがゆえに、さしたる評価を与えなかった「藁(わら)の書」と呼ばれるヤコブ書を著書に取り上げたことの中によく伺われる。信仰による義は実際生活の行いにまで及ぶべきものとして取り上げられているのである。また著書の引用する文献は、C・S・ルイスを始め正統な内容のものが多い。ここにも幅広い思索と探求精神の深さを見ることができ

る。読むに値する好著である。  
(くどう・のおお〓精神科医、平安女学院大学名誉教授)  
(四六判・上二〇六頁/下二三〇頁・上下巻共本体一五〇〇円+税・一石書房刊・発売あめんどう)

# 神学ダイジェスト124号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2018年6月発行  
A5判112頁  
定価630円(税込)

特集「性的マイノリティとカトリック教会」  
巻頭言 人格としての性―多様性とその恵み  
キリストの虹色の体とクイア神学  
同性婚をめぐる議論  
米国における同性婚  
アイルランドにおける同性婚合法化  
レイシズムと教会  
罪をめぐる新たな理解とその可能性  
私たちは神の導きを変えることができるのか?  
(第八回)『正教神学概論』教会の神秘  
主の祈りの翻訳―「誘惑」もしくは「試み」

S・クナウス  
P・オドゾ  
J・クラミック  
J・クレイグ  
R・ウィリアムズ  
J・F・キーン  
I・デリオ  
V・ロスキ  
N・キング

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

21世紀のキリスト教会に、聖霊の力による福音を伝える大切さを熱烈に提示

富岡愛美著

## 失望しないで 求め続けるべき神の祝福



久保木 聡

「現在の教会の伝道が不毛なのは、主の証人とさせるこの御力がないからに他なりません。」(八一頁)と本書は語る。それゆえ伝道への力を与える「聖霊のバプテスマ」を失望せずに求め続けるべきだと訴える。

伝道についてはこのような描写がある。「人間的な方法で人々をおびき寄せ、真理がしっかりと語られることもなく、何がしたいのかわからないサークルにしかなくなってない名目だけの自称『教会』こそ、危険な存在です。(中略) 聖霊を待ち続け、聖霊の御力に頼るよりも、自分たちで人を集めるためにあれやこれやの策を練り、財政に気を揉みながらも伝道集会のために無駄遣いをし、成果が出ないので、より世の人々の関心を引くための次の策を講じていくのです。そうやって教会は、ますます本来の姿からかけ離れていくのです。」(一九一―二〇頁)

本書には現状の教会へのひどい失望がある。著者なりに真実なものを追い求めたものの理解されなかった、受け入れられなかった悲しみ、怒りのようなものが行間からにじみ出ているように思う。そんな中、想定する読者と伝えたい内容として「真

実を求めて飢え渴いている方々のことを覚え、聖書が語る『聖霊のバプテスマ』について、自分自身の証言とともに、どうしても伝えたい」(五頁)と告げる。

本書末尾の著者紹介を見ると、著者である富岡愛美氏は一九八四年東京生まれということと本書出版の約半年前に出版された著書の紹介があるばかりで、それ以外の経歴は記されていない。本文には福音派の教会に籍があったが他の教会に移ったことが記載されるが、具体的な教会名は書かれていない。どうか、本書の中では前述のような内容で歯に衣着せず徹底的に教会を糾弾し続けているのだから、所属教会名はあえて書かなかったのかもしれない。神学校で学んだことはないようで、原語で聖書に当たっている様子もない。日本語訳聖書と共に講解説教集等を丹念に読みながら、真理を探究しているようだ。

本書の魅力は、前述のように宣教が低迷する21世紀キリスト教会に対し、聖霊の力によって福音を伝える大切さを熱烈に伝えようとしていることだと思ふ。またその大切さを伝えようと、おそらくは神学校教育も受けていないままで執筆し、そしてお

そらくは自腹による出版でキリスト教界に届けようとした気概のように思う。また著者による教会への批判は耳が痛い、教会が真実に教会であるのかを問い、点検するきっかけにもなるだろう。

そんな魅力もある本書であるが、著者はもっぱら聖書と故人となった霊的巨人とも言える牧師たちの著作との対話を繰り返すばかりで、今を生きるキリスト者に対しては否定的で学び合う姿勢が見られないことは非常に残念に思った。パウロが「互いに人を自分よりもすぐれたものと思いなさい」(ピリピ2:3)と述べたが、仮に相手がどれだけ問題性を持った人であろうと何かしら学びうる優れたものがあるはずである。

また著者による教会批判の中で、伝道する力としての聖霊のバプテスマ体験の必要性を述べているにも関わらず、著者自身が伝道する描写が本書にはない。現状の教会の伝道を痛烈に批判するのであるなら、著者自身の聖霊のバプテスマ体験を通して、力強く伝道し、豊かな実りにつながったかを身をもって示すこ

とが問われている。いつかきつとそのような伝道の実りを書いた続編を読めることを信じ、待ち望みたいと思ふ。

評者は牧師として本書を通して深い痛みを覚えていた。それは本書の著者に限らず、教会には聖書に真剣に取り組み中、牧師のあり方や役員会の決定等が安直で世に妥協したものにか見えず、聖書と違っているとの信徒の訴えが出てくる現実があるからだ。自らの訴えをわかつてほしい、受け入れてほしいとの思いをどれだけ真摯に受け止めてきたかが問われている。

しかしまたその訴えが評者の許容範囲を超え、受け止めきれない無力さも味わってきた。本書の行間には、受け止めてもらえなかった嘆きが見え隠れする。聖霊のバプテスマの大切さと共に著者のわかつてほしい、どうしても伝えたいという切なる思いをゆつくりと受け止めていきたいと思わされている。

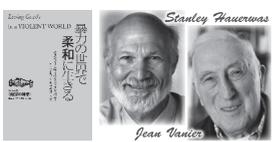
(くぼき・さとし) 日本ナザレン教団鹿児島教会牧師  
(四六判・二二八頁・本体一〇〇円+税・ヨベル)

神学者と実践家が和解の実現  
について語り合う新シリーズ

シリーズ和解の神学 全3巻

## 暴力の世界で 柔和に生きる

スタンリー・ハワーws/  
ジャン・パニエ  
五十嵐成見/平野克己/柳田洋夫 訳



暴力が支配する世界において、私たちはどのように生きるべきか。知的障がい者と共に生きる共同体「ラルシュ」の創設者パニエと、現代アメリカを代表する倫理学者ハワーwsが「新しい生き方」を問い、共生の意味を明らかにする。

四六判 並製・152頁・1,728円

シリーズ続刊予定

《第2回記念本》『すべてのものとの和解』  
《第3回記念本》『救された者として赦す』

## オリゲネス イザヤ書説教

関川泰寛 監修  
堀江知己 訳訳・解説  
A5判 上製・216頁  
2,700円

古代教会最大の神学者オリゲネス。常にキリストを念頭に語る彼のイザヤ書説教は、今でも聖書の魅力を新しく伝える。その生涯や神学などの解説付き。

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigy@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)  
http://bp-uccj.jp

信仰者の霊性と実生活に大きな励ましと慰めを生み出す  
地濃誠治著

## 無菌室のボーカル



## 檀原久由

「人の人生は出会いで決まる」という言葉があります。地方教会で伝道・牧会を担った牧師が経験するのは、求道者との出会いが少ないことです。この本は、その貴重な出会いが一人の牧師の生涯を決めたという事実を明らかにします。

兵庫県龍野市（現たつの市）で経験した、パンクロックバンドのボーカル木村直樹さんとの出会いと死が強烈だったからこそ、著者の地濃誠治氏は地方教会の牧師への道を最後まで追い求めたでしょう。地図で探すような町で、地域には珍しいタイプの青年がキリストを信じ、洗礼を受け、将来を託されながら二二年の生涯を病気で閉じた出来事の中に、読者も神さまの不思議な恵みを見出すことでしよう。

地濃氏は、日本ホーリネス教団での四二年間におよぶ牧師生活を一〇一七年三月で終えました。私にとって著者は大先輩にあたり、全教職者が集う年会で何回か言葉を交わした程度の関係でしたが、なぜか親しさを覚えました。その理由は、恐らく、愛媛県の北条教会で私の前々任者の牧師であったことからくる、同じ教会の現場を知る仲間という意識が働いたのだろうと思

ます。

この本は自叙伝に分類され、悩みながら福音に仕えた牧師とその家族が抱える、自己嫌悪と愚痴、失望と落胆というような、信仰者であっても直面する現実の苦悩が率直に語られる、独白本でもあります。そうだからこそ、読み終わったとき、「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働く」という、ローマ人への手紙のパウロの言葉が真実に読者の心の中に響いてくるはずです。そして、人生を肯定的に捉えることのできる、希望と喜びと平安をこの本の中で発見することでしょう。

監督制度を守る教団だからこそ起こる、突然の転任における人間ドラマは、信仰に生きる牧師のあり方を鋭く問います。自分の希望や願いが聞き届けられない転任は、世の中の企業でも起こりますが、単身赴任が難しい牧師家庭では家族も巻き込む一大事となることがあるのです。

牧師も神の前では一人の信仰者であり、一人の人間です。様々な葛藤や弱さを抱えながら、信仰者の道を歩み続けなければ

ばなりません。それを正直に告白し、ショッキングな自分の内面を赤裸々に明らかにする態度の中に、著者の真実さや誠実さが漂ってきます。例えば、生まれてくる自分の子を望まないようなキリスト者の親がいるでしょうか。自分の子の死を願うような牧師はいるでしょうか。それを正直に告白し、神さまの赦しの御手の中に委ねる牧師の姿を見ると、神さまへの絶大な信頼と誠実さを読み取ることができます。そして、私自身、読者自身、どう生きているのかと問われるでしょう。

「無菌室のボーカル」は三部構成になっています。第一部は、著者の誕生から献身、木村直樹さんとの出会いまで。第二部は、いのちのことは社が青年伝道用に作った「ワンウェイ」という月刊誌（今は廃刊）のスペシャル版、「若いあなたに」に掲載された同名の文章がベースになっています。そこでは、木村さんの闘病日記が中心を占めます。第三部は、その後の著者の歩みとなります。

牧師という働きに献身する者が起こされない、牧師よりも別の働きに移る方が楽という声が聞こえる時代にあって、地方教会に身を捧げ、働きを終えることの祝福がいかに大きいかを知ることが、私たち信仰者の霊性と実生活に大きな励ましと慰めを生み出すことと確信します。

私たちの世界は、結果がものをいう世界です。都会は便利で、地方は不便を強いられる世界です。地方は若者を都会に供給して、損をする地域だという考え方が支配的です。実際、少子高齢化の問題は避けて通れません。だからこそ、愚直なまでに地方の小さな教会の働きにこだわった牧師の歩みを学ぶことは、私たちに対する神さまのご配慮の偉大さに感謝の目を向けさせることでしょう。

（だんばら・ひさよし）日本ホーリネス教団安城教会牧師  
（四六判・二三頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）



## べてるな人びと

第5集 神さまへの嘆願書

向谷地生良  
Ikuyoshi Mukaiyachi



憂いの芯にユーモアがある。  
だからとことんつきあえる。  
うるたえる人に、つまずく人に。

鷲田清一さん推薦

世界中から注目されるコミュニティーべてるの家。幻聴や妄想と共存しながら地域で暮らす。支え合う仲間とのべてるな日常。

四六判・上製

定価 [本体 1,800 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-102-1



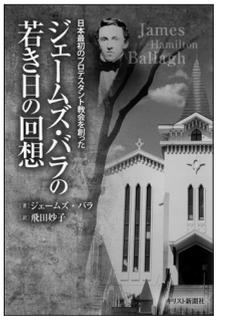
株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

今日の教会に贈る、日本伝道創業期の開拓者  
ジェームズ・バラ著  
飛田妙子訳

## 日本最初のプロテスタント教会を創った ジェームズ・バラの若き日の回想



太田愛人

本書の原題は“Grandpa's Romance of Missions”である。長年埋もれていた宣教師バラのアメリカにおける少・青年時代から来日までの回想記で、回心とその前後の魂の記録である。宣教師バラの功績を知る者にとっては、明治維新一五〇年を記念すべき年の喜ばしい出版と言えよう。明治維新前後の禁教時代から、プロテスタント宣教師たちの活動が、書簡や伝記の出版により紹介され、研究が活発になってきた時、本書もその一端を担うものとして歓迎されるであろう。

日本プロテスタント史研究の開拓者で戦後、日本基督教団富士見町教会で研究会を開催続けた小沢三郎は、「横浜はプロテスタント教会史研究者にとつて宝の山である」と名言を遺した。小沢氏の没後、高谷道男のヘボン研究に促進され横浜プロテスタント教会史研究会が誕生し、現在も毎月第三土曜日に横浜指路教会で例会が開かれている。訳者も会員の一人で熟達した英語教師である。氏はバラが創設した海岸教会の信徒で、独力で長期間埋もれていた文書を手掘りのような努力を重ね、母教会のルーツの貴重な宝を発掘して公開した。

も受けたのである。宣教師バラに学び、後で弘前に教会を建て政治にも関与した本多庸一は「余はバラ氏の説教よりも其の祈りに動かされた一人なり」と回想し、「神よ我が日本を救い給え、此の門下生を導き給え」の祈りに感動したと遺している。新日本政府の発足にあたって、植村が「押さえられし噴水」と喻えたこの時代、バラの活躍は貴重な賜物であり、バラの「余は如何にして伝道者となりしか」を問いたくなる。夫人のマーガレット・バラが残した記録も一九九二年、地元横浜の有隣堂書店から『古き日本の瞥見』として出版され、読者を驚かした。喜望峰、インド洋、遠州灘の荒海を越えて、宣教師日本までの航行したバラ夫人の記録を読んだとき、評者はパウロの海上の難を連想して驚嘆し、二二歳の記述に感謝した。バラの国内伝道は、名古屋まで歩き、帰途では中仙道を辿る。その健脚はセールスマン時代の賜物だろう。松本で当時弁護士であった木下尚江が、バラから「ロウヤーはライヤー（弁護士

横濱、札幌、熊本の三バンドは日本プロテスタント史において有力な開拓者として大きな役割を果たしてきたが、横浜は地の利の故に他より多くの有力な宣教師が活動する地になった。医師を兼ねたヘボン、聖書翻訳に貢献したブラウン、新政府にも関わるフルベッキらは新日本にも功績を残した。一方、少し遅れて入国したバラは明治五年の教会創設に関わり、熱心に国内伝道に励み、弟子たちを訓練した。バラから洗礼を受けた植村正久は『植村正久と其の時代 第一巻』に、バラに関する三つの文章を遺し、旧師への尊敬と功績紹介。バラから受けた教訓として、

- 一、熱心なる祈禱
- 二、聖書の愛讀
- 三、直接傳道の急務
- 四、深厚なる友誼同情を挙げている。

「聖なる犬小屋」と人々から嘲笑されたバラの教会だが、そこに集まった英語塾の塾生たちもまた、バラから信仰への導きはうそつき」だと喝破されて、弁護士から転職した挿話は有名である。バラの開拓農や商人の仕事が口説、健脚、度胸を鍛えたことを本書は教えてくれる。日本伝道の創業期にバラの開拓魂が充分生かされたのだ。

一九世紀の宣教師列伝には出てこないような時代の背景が行间から読み取れる。維新前後の教界にはバラが必要であった。「いかに美しいことか 山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は」イザヤ書の一節を読後に思い出す。今日の教会にバラの気概が必要なことを暗示した本である。

（おた・あいと＝元日本基督教団土屋川教会牧師）  
（四六判・二二六頁・本体一五〇〇円＋税・キリスト新聞社）



## 新刊 死生学年報 2018

### 生と死の物語

東洋英和女学院大学  
死生学研究部編  
●A5判並製 本体2500円＋税

『魔女の宅急便』『風立ちぬ』から  
オイディプス神話へ  
古川のり子

●  
西洋占星術に見る  
人の生死と運命  
比留間 亮平

●  
社会活動における  
宗教的価値の相反と克服  
高瀬 顕功

●  
金光教の死生観  
奥原 幹雄

●  
病氣治しと死霊の供養  
渡辺 和子

●  
能に見る生者と死者との交流  
J. ファーナー

●  
知識人と一般人の  
死後生観をつなぐ  
宮嶋 俊一

●  
「いじめのせいで  
自ら命を絶ってしまうことは  
悲しすぎます」  
酒井 徹

●  
他、9篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
TEL.03-3238-7678 FAX.03-3238-7638

子どもの人権の保障のあり方を問う  
小見のぞみ

## 田村直臣のキリスト教教育論



今井誠二

著者の言葉を用いるならば、本書は「近代日本キリスト教史において……キリスト教による教育理論の構築と教育実践のパイオニアで、キリスト教による『子供本位』と『子供の権利』の提唱者でもある」（二二頁）、「田村直臣とその教育思想を軸に日本の近代教育とキリスト教を見る」（二二頁）研究書である。二〇年以上にわたる田村研究の集大成として提出された博士論文の書籍化であり、二五頁にもなる関連年表や網羅された参考文献表も含めて四百頁を超える大著である。

一見、評者のような教育学の門外漢には近寄りたがたい印象を与えるが、序文で田村の教育思想に接近するための方法論の検討や研究対象とされる素材について説明がなされ、各章の最後にまとめとして分かりやすい要約がなされる。「日本の花嫁」事件（男女同権の視点から、家長長制、結婚といった日本の習俗を海外に紹介したことが各方面から批判されて国辱と烙印を押され、牧師資格まで剝奪されることになった事件）や日曜学校運動など、思想や人物像に触れて田村に興味を持った人間であれば、自然に引き込まれていく構成になっている。様々な困

難を乗り越えて理想をめざして道を切り開こうとする行動的な田村の人物像は、先人に学ぼうとする実践家にとっても大変興味深いはずである。

著者は、田村研究が進んでいない状況を概観し、資料が乏しい中で成し遂げられた先行研究を建設的に評価しつつも、それぞれ方法的に問題があることを批判的に吟味した上で、研究の視座を前もって明らかにしようとする努力をしている。方法論に関しては、とりわけ武田清子とT・ヘイスティングズの研究を肯定的に評価しているが、それぞれ著者の視点とは違うことを前置きする。「……武田は、田村の『日本の花嫁』事件研究にあたって、事件前後の田村の生涯を踏まえ、田村がいつも自身の思想と生活を一致させて生きる人物であることから、事件における言動の意味を割り出している……。このような研究の手法と、武田がこの研究において映し出した田村直臣とその思想には、田村研究の方向性が示されているが、本研究とは関心が異なり、研究としての位置づけにも大きな違いがある。……近代的人間形成とキリスト教との対峙に関する研究の中で田村をと

りあげる武田と、田村直臣とその教育思想を軸に日本の近代教育とキリスト教を見る本研究との当然の差異といえる」（二二頁）。「ヘイスティングズは、ここで、宗教教育の有機的、発達の、進化論的枠組みが、日本の回心主義者たちに受け入れられない状況の中で、田村は、宗教生活の連続性を説き、『日本の花嫁』事件時には否定されたキリスト教信仰の日常生活への連動性を、宗教教育によって実現しようとしたと、非常に興味深い分析をおこなって」（二八頁）……「田村を一つのモデルとして、北米プロテスタント・ミッションの日本宣教を实践神学の立場で論じ……田村の教育的主張を取り扱いながら、教育論ではなく、宣教論の範疇にある」（三〇頁）。

著者は丁寧に文献資料を辿り、生い立ちやキリスト教に入信するに至った築地バンドの時代から、男女同権の思想を涵養した留学生時代、「日本の花嫁」事件の背景と顛末、その後の精力的な日曜学校運動の推進と方向転換を通して田村の生涯の最

期にまで至り、教義学や聖書学の最先端の知見を先取りした上で実践的視点からそれらを批判し、「子ども中心のキリスト教」を普及させようとした田村の教育思想の発展を歴史的・社会的背景を交えながら分析している。本書はいわば田村直臣の教育思想に関する包括的かつ歴史的批判的な研究書である。キリスト教教育を志す学生や近代日本における宗教教育の研究者、日本における子どもの人権の保障のありかたについて学ぼうとする者たちにとって、本書は避けて通ることができない重要な文献であると言えよう。

（いまい・せいじ 尚綱学院大学教員・特定非営利活動法人仙台夜まわりグループ理事長）

（A5判・四九〇頁・本体六〇〇円＋税・教文館）



## A・E・マクグラス 本多峰子訳 旧約新約聖書ガイド

創世記からヨハネの黙示録まで

聖書の言葉に生きる神学者による聖書の手引きである。優れた、豊かな、そして確かな一冊である。深井智朗氏（東洋英和女学院院長）推薦！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈 内容見本、図書目録 ● 価格は税別

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・17F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区栄町5-2	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.bigoboe.jp	sksch@mva.bigoboe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1-15	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.bigoboe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masajama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	沖縄県読谷郡読谷777	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2018年4月～5月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
A.M.ウォルターズ著 宮崎 彌 男 訳	[増補改訂版]キリスト者の世界観 一 創造の回復	四六	218	1,800	教 文 館	4/20
G.タイセン著 大 貴 隆 訳	パウロの弁護人	四六	486	3,800	〃	4/30
K.バルト著 佐藤敏夫編訳	バルト 自伝 [新教新書279]	新書	139	1,200	新 教 出 版 社	4/20
田 島 卓	エレミア書における 罪責・復讐・赦免	A 5	328	3,400	日本キリスト教団出版局	4/2
井上洋治著 山根道公編・解説 若松英輔解説	井上洋治著作全集10 日本人のためのキリスト教 入門、井上洋治著作一覧	A 5	252	2,500	〃	4/20
嶺 重 淑	NJT新約聖書注解 ルカ福音書 ―1章～9章50節	A 5	490	5,200 (特価4,400+税、2018年9月30日まで)	〃	4/25
藤 原 孝 行	聖 歳 時 記 一見たまま、感じたま まの短歌・俳句・川柳	四六	128	1,000	ヨ ベ ル	4/1
E.スヒレベクス著 時 任 美 万 子 訳	ザ・ユーカリスト トリエント公会議 以降の新たな出発	新書	192	1,000	〃	4/25
藤 本 満	乱 気 流 を 飛 ぶ ―旧約聖書ダニエル書から	新書	112	900	〃	4/25
アレクサンドリア のクレメンズ著 秋 山 学 訳	キリスト教教父著作集4-II アレクサンドリアのクレメンズ2 ―ストロマテイス(綴織)II	A 5	512	8,300	教 文 館	5/30
古 莊 純 一	発達障害サポート入門 ―幼児から社会人まで	四六	210	1,300	〃	5/30
鶴 飼 栄 子 著 梅 津 順 一/梅 裕 美 聞 き 手	微笑みをつないで ―教会と共に90年	四六	154	1,500	〃	5/30
一 色 哲	南島キリスト教史入門 ―奄美・沖縄・八重山の近代 と福音主義信仰の交流と越境	四六 変	232	2,200	新 教 出 版 社	5/30
S.ハワーワス/J.バニエ著 五十嵐成見他訳	暴力の世界で柔和に生きる ―シリアズ和解の神学	四六	152	1,600	日本キリスト 教 団 出 版 局	5/25
関川泰寛監修 堀江知己訳・解説	オリゲネス イザヤ書説教	A 5	216	2,500	〃	5/25
ジェームズ・バラ著 飛 田 妙 子 訳	ジェームズ・バラ著 の若き日の回想	四六	226	1,500	キリスト新聞社	5/25
香 山 リ カ	迷える社会と迷えるわたし ―精神科医が考える平和、 人権、キリスト教	四六	176	1,600	〃	5/25
富 岡 愛 美	失 望 し な い で ―求め続けるべき神の祝福	四六	128	1,000	ヨ ベ ル	5/21

# 福音と世界

2018年8月号

特集 国家 天皇制、キリスト教

寄稿者 白石嘉治、上村静、鈴木裕子

伊藤朝日太郎、内田樹

個・関係性・人格性——ルターの問題とわれわれの上(松浦純)／好評連載 福音の地下水脈 (KAZUO KENO) 野に咲く民衆の神学(齋藤真雄) 聖書とわたし(石井光太) 地のいと低きところ(ホサナ) (レイディ) みかこ、みことば散歩(望月麻生) 現代神学の冒険(声名定道)、詩篇の思想と信仰(月本昭男) ほか

A5判・本体588円・〒70円  
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148  
Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

前回(四月号)の編集後記に、『キリスト教綱要』の読書会をについて書かせていただいた。その一巻目の読書会が終わったところで、SNSにその感想を投稿したところ、クリスチャンの友人や牧師、神学生らから「いいね」やコメントをいただいた。二〇代からも「楽しそう!」という声から、「全巻揃えたけど、読むきっかけがなくて……」「誰かと一緒に読めばいいんだ! やってみます!」など。当たり前かもしれないが、古典や読書会に興味がある人はまだまだいるようだ。牧師の良書紹介もありたいが、情報発信はSNS世代の若者にも一役買ってもらいたい。教会の青年と話をしても、意外と(?)キリスト教書を読みたいとは思っているよう。ただ、どうも勉強気分になって、途中で飽きてしまったりと続かないようだ。スマホ世代と真ん中の高校生にも「読書する?」と聞いたとこ

ろ、「しない」と即答。「読んでいても、ちょっと前に何が書いてあったかすぐに忘れてしまうから嫌になる」だそう。一方で、SNSの短い文書や、細かく区切られたブログ記事は読めるのだとか。

興味はあるが理解が追いつかない。特にそれが専門書からの距離が遠ざかる要因となっているのかもしれない。では、分かりやすい言葉、噛み砕いた言葉にして届けられれば万事解決か……といえ、そうでもないだろう。

先日読んだ、「元講談社編集者の鷲尾賢也さん(故人)の『編集とはどのような仕事なのか』(トランスビュー)」に、読者が「なんとなく分かったような気になった。あるいは賢くなったような気になった……ということになれば、編集者の仕事としては成功なのである」とあった。確かに大人も読んだ本のすべてが頭に入っているわけではない。名編集者が「なんとなくいい」と語るのだ。情報が流れるネットの世界ではないのだから、ゆとりを持って読めばいい。そう読書のハードルを下げるのも、わたしたちの役目かもしれない。問題は怎么样って伝えていくか……。 (桑島)

## 本のひろば 2018年9月号 予告

本・批評と紹介…大澤耕史著『金の子牛像事件の解釈史』、N・T・ライト著『悪と神の正義』、香山リカ著『迷える社会と迷えるわたし』、堀江知己訳『オリゲネスイザヤ書説教』他

# エフエソ書を読む 釈義と説教

石田学 著 (いしだ・まなぶ氏は日本ナザレン教団小山教会牧師)

様々な相違を相違として受け入れた上で一致を勧めた教導的小論として読む。釈義とその結果である説教を併記。ユニークなエフエソ書の解説。 ◆四六判・本体2000円

7月25日

# クエーカー入門

ピンク・ダンデライオン 著 / 中野泰治 訳

その発展と分派の歴史から「沈黙の礼拝」や「聖化」などの中心教義、社会との関わりについて、社会学者である著者が明快に解説する。 ◆四六判・本体2400円

6月25日

# 南島キリスト教史入門

奄美・沖縄・宮古・八重山の近代と福音主義信仰の交流と越境

一色哲 著 (いっしき・あき氏は帝京科学大学教授) シリーズ「神学への船出04」  
丹念な調査と「交流史」的視点に基づく重層的な叙述。 ◆四六判・本体2200円

5月25日

# 聖書の風景 小磯良平の聖書挿絵

岩井健作 著 (いわい・けんさく氏は日本基督教団隠退教師)

日本を代表する洋画家・小磯良平が描き下ろした32点の挿絵を一点ずつ取り上げ、画家が聖書から何を読み取り、いかに表現したかを解説。 ◆A5判変型判・本体2500円

大反響

# バルト自伝

佐藤敏夫 編訳

没後50年を機に読みやすく改版・復刊！ ◆新教新書279号 本体1200円

トム・ハーパー 作 / 中村吉基 訳 / 望月麻生 絵 ◆B6 変型判・1500円

# いのちの水

〈恵み〉を領(し)る人々を諫めた寓話 (鷺田清一)

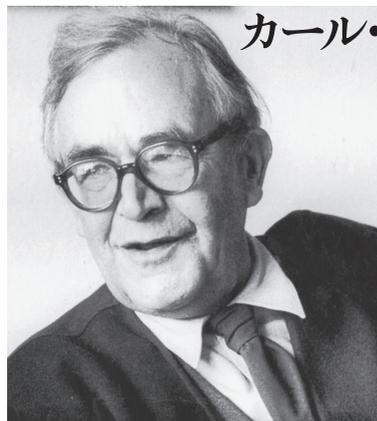
朝日新聞 5/24、6/15 で紹介!

# 新約聖書と神の民 下巻

N・T・ライト 著 / 山口希生 訳

主著の邦訳、待望の完結!

上巻で詳細な方法論的基礎づけを終えた後、本下巻ではいよいよ原始教会の信仰理解を詳述。教会の生成と新約聖書の成立の様相が明らかとなる。 ◆A5判・本体3700円



## カール・バルト召天から50年——

今、ここに、バルトを甦らせる  
新しい神学入門

# カール・バルト 未来学としての 神学

福嶋 揚

聖書は、未来の希望を指し示す。そして20世紀最大の神学者カール・バルトは、この聖書が示す希望を現代世界に語った。バルト召天50年を記念して刊行される本書は、世界の闇が深まりゆく今こそ、バルトの生涯と思想をたどりなおし、真の希望を捉えようと、読者をいざなう。

2018年7月25日刊行予定

◆四六判 並製・208頁・1,944円

召天50年を記念した新刊書籍やキャンペーンを企画中! ご期待ください!

現代の日本でどうやって伝道するか、気鋭の牧師が具体的に提案する

## 伝道のステップ1、2、3 信徒と牧師、力を合わせて 鈴木 光

教会経験10年、気鋭の牧師が自分の失敗も見つめつつ、できるだけ具体的に、伝道の方法を提案する。信徒と牧師と一緒に読み進めることで、自らを振り返り、改善点を見出すことができる。伝道する教会に生まれ変わるための、格好のテキスト。

2018年7月6日刊行予定

◆A5判 並製・128頁・1,512円

